この街が好きだから

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

no.59

吉祥寺本町二丁目付近にて

この作品は、中道通りで描いたもので、人々を前面に入れたことで、活気に満ちた町並みが表現できたかなと思っている。

ところで、このような人混みを目にして、ふと八年程前にスケッチ旅行で行ったモロッコのフェズの町を思い出した。吉祥寺とは歴史や文化が全く異なるフェズだが、世界一複雑な迷路の町として有名で、またモロッコ初のイスラム王朝の都であったことでも知られている。

吉祥寺の品位ある混雑振りとは異なり、フェズのそれはとても異質な印象を与える町だと思う。入り組んだ路地は、積み荷を背にしたロバが行き交い、店頭で売られている鶏の鳴き声に混じって、なめし革の臭いが漂う町、それがフェズだ。そこで土産に買った小型のタジン鍋が、唯一フェズの思い出の品として、我が家の飾り棚に収まっている。

（絵と文：大須賀一雄）

Profile

大須賀一雄
（おおすかかずお）

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。